

## 平成 28 年度 第 2 回田原市総合教育会議 議事録

### 1 日時

平成 29 年 2 月 17 日（金） 午後 1 時 15 分～午後 2 時 15 分

### 2 場所

田原市役所 北庁舎 3 階 302 会議室

### 3 内容

- (1) 福江中学校と福江高校の連携について
- (2) 学校再編について
- (3) 平成 29 年度一般会計予算について

### 4 出席者

市 長		山下 政良
教育委員会 教育長		花井 隆
教育委員会 教育長職務代理		横田 威
教育委員会 委員		山本 明子
教育委員会 委員		土井 真紀江
教育委員会 委員		金田 真也

### 5 欠席者

なし

### 6 会議構成員以外の出席者及び事務局

企 画 部 長	中村 匡
教 育 部 長	大根 義久
企画部企画課長	大羽 浩和
総務部財政課長	鈴木 嘉弘
教育部教育総務課長	三竹 雅雄
教育部学校教育課長	鈴木 欽也
企画部企画課主幹	鈴木 真喜生
教育部教育総務課課長補佐兼係長	伊藤 英洋
教育部教育総務課主任	宮嶋 綾子

### 7 傍聴人

2 名

### 8 協議の経過

(企画部長)

定刻となりましたので、ただいまから平成 28 年度第 2 回田原市総合教育会議を始めさせていただきます。始めに山下市長からご挨拶を申し上げます。

(市長)

それでは皆さんこんにちは。第 2 回の田原市総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。

まもなく 3 月定例議会も近いということで、昨日、予算を発表させていただきました。一

般会計につきましては、今年度、295億5000万円から、来年度、275億8000万円と、約20億円の落ち込みということになります。現実には、もっと収入は減っているのですが、財政調整基金の取り崩しをしながら、また、市債の借り入れをしながら、何とか20億の減だけで収めたのが実態でございます。そういった実態を含めながら、あと、財政課長の方から予算につきましては説明してもらいますけれども、そんな中、私たちも教育委員会の事業について、皆さん方と共に進んでいかなければということですので、今後ともよろしく願いいたします。

(企画部長)

ありがとうございました。

それでは、これ以降の進行は、本会議の議長であります市長にお願いいたします。

(市長)

それでは、会議を始めたいと思います。(1)福江中学校と福江高校の連携について、事務局から説明をお願いします。

(学校教育課長から(1)について説明)

(市長)

ただいま、福江中学校と福江高校の連携について、事務局から説明がありましたけれども、これに対するご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

(横田委員)

よろしいですか。それでは3点お願いします。

まず1点目は、地域の方々が新聞を読んだ時に、一貫教育という見方をした人がいました。福江中学と福江高校が一貫教育か、入試は楽でいいなど、ということを言われました。ここで挙げているのは、連携型一貫教育ということですので、「連携型」というのを是非、啓発していただきたい。いろんなところで、簡単に言葉を短くして、一貫教育と言ってしまいますので、「連携型」というのを啓発していただきたいと思います。

2点目ですけど、来年度から始まるということで、長期的な展望に立ってやっていただきたいのが感想です。今後の展望がありましたら、お話を聞かせていただきたいなと思います。

もう一つは、先生たちと子どもたちが、連携し、いろいろな活動をしていく中で、移動が出てくると思います。先生方と生徒の環境整備を是非、頭の中に入れていただきたいなと思います。例えば、移動している中の交通安全。先生方が授業などを見たりする時の移動手段での交通事故。それから、カリキュラム、時間割を移動させると思うのですが、先生方に負担にならないようなこと。例えば、高校の先生が中学校に行って授業を見て戻ってきたら、すぐ、自分の高校で授業をやらなきゃいけないとか。そういう細かなことが、たぶん出てくると思うのですが、そういう環境整備を、是非考えていただきたいなと思います。

(市長)

「連携型」というのを大きい声で言ってほしいと。ようするに、中高一貫教育という勘違いしそうで、あくまで「連携型」であることをPRしてほしいということです。

それから、将来に対する展望と、移動の際の事故だとか、それと多忙化にならないかといったおそれ、この辺りをお願いします。

(学校教育課長)

1番目の「連携型」をしっかりと浸透させていくという点は、私たちも同様のことを考えております。中学校の保護者の方たちは、特に入試制度がどうなるのだろうかと気になって

いると思います。今、先行地域で、北設楽郡や新城市で行われている学校の例で言いますと、この連携型一貫校における入試という、一般入試とは違う入試制度で行われています。

福江中学、福江高校がそのまま同じ形で導入されるかどうかは、これから検討していくところではありますが、先行地域で言うと、入学試験はもちろん行っております。ただ、一般の学力検査、面接とは違い、面接に近いような、3年間の学習で学んだことの集大成のようなものを生徒が発表するような形の、面接的な入試を行っていると同っています。この点につきましては、私たちだけで決めていくことはできませんので、高等学校、県教育委員会の高等学校教育課とよく相談をして、できたらこちらの要望も挙げていきたいと考えています。

あくまでも「連携型」であると。エレベーター式で試験も無く行くことではない、ということでも広めていきたいと思っています。

それから、2番目のご質問いただいた件です。まだ、これから始まっていくというところで、長期的な展望ということでは具体的にお答えできないのですが、私たちが大事にしているのは、子どもたちの成長を、6年間見通して、よりより社会人になっていけるような、そういった学習を、福江中学校から福江高校へつないで進めていくことができないだろうかと考えています。もちろん、福江高校以外の高校へ進学していく子も大勢いますので、そういったことも踏まえながら、福江高校に進む子については、連携で学んでいることがそのまま6年間生きていくような形で進めていけるといいのかな、と考えています。カリキュラム、学習の内容については、今後、また深めていくということです。

それから、3番目のさまざまな環境を整えてほしいということにつきましては、できる限り学校の負担にならないようなことを、こちらでも検討していきたいと考えています。先行地域での状況は、教員が授業で交流する時には、補充のような形で教員を両校に入れて、交流しても空さができないよう教員を配置するなどのことを、県教育委員会の方からしております。

いくつか、問題点がこれからも浮かび上がってくると思いますので、それに対する対応については、よく検討していきたいと考えております。以上です。よろしくお願いいたします。

(市長)

他によろしいですか。

他にご意見も無いようですので、次に、学校再編について事務局から説明をお願いします。

(教育部長から(2)について説明)

(市長)

ただいま、学校再編につきまして、事務局から説明がありましたけれども、これに対しましてご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

新聞ですが、皆さん見られましたか。あれは、定例記者会見の後でしたか。

(教育部長)

そうですね。記者会見後に出て。

(教育長)

その時には、しいて言えば見直しという言い方でしたが、今回の中身は、私がインタビューで答えた内容を穏やかに書いてくれたと。理解してもらったなという気がします。

(横田委員)

私たちの定例の教育委員会でも、一度見直しをしてくださいをお願いをしてきました。その一つの理由は、南部小学校がだいぶ人数が増えてきたこともあり、学校の規模が以前と比べ変わってきたこともあるのでお願いしてきました。

(市長)

定例記者会見でも、見直しを検討するという言い方でした。

(横田委員)

今後は見直しの計画案が出てくると思いますが、是非、統合となった地域の人たちの声を大事にしていただきたい。年代層によって声も違うと思いますので、保護者の声、地域に住む高齢者の方々などの声も大事にして作っていくのが良いという気がします。

(教育部長)

当然、皆さんの声などを検証しながら対応したいと考えています。

(横田委員)

保育園の統廃合が進んでいるんですね。しかし、地域の方が知らないことが多い。役員の方々には知っているのですが、一般まで情報が来ない。

説明している、新聞に載っている、広報に出している。でも、読まない人もいますし。

(教育長)

地域に情報を流していく、これは非常に大事なことです。

それと、関係の地区で、どういうことが起きているか伝えながら、皆さんの賛同を得ながら進めていけるような形でいきたい。昨日も、泉地区から、赤羽根地区との話し合いを早く始めたいという声もありましたが、しっかり、丁寧にやっていくのが大事であり、これからも、より広く情報を流す中で進めていくのでご理解いただきたいと思います。

(山本委員)

新聞記事によりますと、亀山小学校が 2020 年度以降に複式学級になるという可能性があるとのことですが、どのような状況なのかお願いします。

(学校教育課長)

愛知県では、隔年で複式になるのは防ごうということです。

例えば、1 学年だけ極端に少ない学年があるとします。現 3 年生が 5 人、4 年生も 7 人で少なく、合わせて 12 人。14 人以下で複式の対象になりますが、次の年になると、新 3 年生になる子どもたちが多くて、合計で 14 人より多くなると複式に該当しない、そういうことがあるうちは、複式は始まりません。

ただ、続けて、上の学年、下の学年との組み合わせで、どんどん先が複式に該当する人数になる予定がありますと、その年からスタートすることになります。

まだ、はっきりしていませんが、年齢別の人数で出した時に、2020 年度に 3・4 年生になるお子さんが、ぎりぎりそこに引っかかってきそうだと、ということです。1 人 2 人増えれば変わることはありますが、こういう規定がありますので、そのあたりのことが心配になってくる年だということです。

(山本委員)

14 人だったのが、1 人転校したことで、突然複式になることがありますか。

(学校教育課長)

突然ということはないです。愛知県教育委員会と話をしながらですが、続けてなってしまうという見通しになってしまうと、その前後の学年で複式になる可能性があるということです。また、将来、大勢になって復活することもあります。

3・4年生の組み合わせで14人以下、5・6年生の組み合わせで14人以下。低学年はゆるくなって、1・2年生は7人以下。そんな形でございます。

(市長)

大草小学校は、昔、複式でした。

(山本委員)

でも解消されたんですね。

(市長)

大草団地ができて増えてきて、解消されました。ただ、住宅開発が過ぎるとまた少なくなつて。波を繰り返しているんですね。

(山本委員)

亀山小学校、その次は、六連小学校、神戸小学校、大草小学校。いつかこういう問題が出てくると思います。伊良湖岬小学校は、始め、統合という話が出た時、複式を回避しようということでした。子どもたちが、どういう教育を受けるかが大事だと思います。

(市長)

他によろしいですか。次に、平成29年度の一般会計予算について、よろしくお願ひします。

(財政課長から(3)について説明)

(市長)

ただいま、平成29年度の一般会計予算について説明がありましたけれども、何かご質問、ご意見等がありましたらよろしくお願ひします。

(横田委員)

教育費はここ数年間、10%前後で推移していますね。

うまく収入が増えるといいのですが。人口が増えれば、収入は増える。

(市長)

住民税もありますし。仕事もしていただいて、仕事が活性化すれば、税収は増えます。人が動かなければいけません。

(横田委員)

独身もけっこう多いです。

(市長)

結婚、子育て支援。今日の新聞は、これが中心でした。将来、田原を担ってもらふ子どもたちのために。やはり、少子高齢化の時代に入っていますので。

(横田委員)

魅力のある街づくりが大切です。

みんな、一時は出て行くんですが、リターンしてもらって。

(山本委員)

努力しないと戻って来ないですね。環境を作っておかなければ。

(市長)

環境というのは、たくさんあると思うんです。街の環境と、それから職場も整えていかなければいけないし。そこで、帰って来てくれるとありがたいですね。

よろしいですかね。

他にないようですので、事務局から何かありますか。

「その他」もないようですので、来年度の会議の予定でございますけれども、6月議会の後、第1回をと考えておりますので、よろしく願いいたします。

他になければ、本日の議事は全て終了ということで、本当にありがとうございました。

これをもちまして、第2回の、田原市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。

(閉会 午後2時15分)